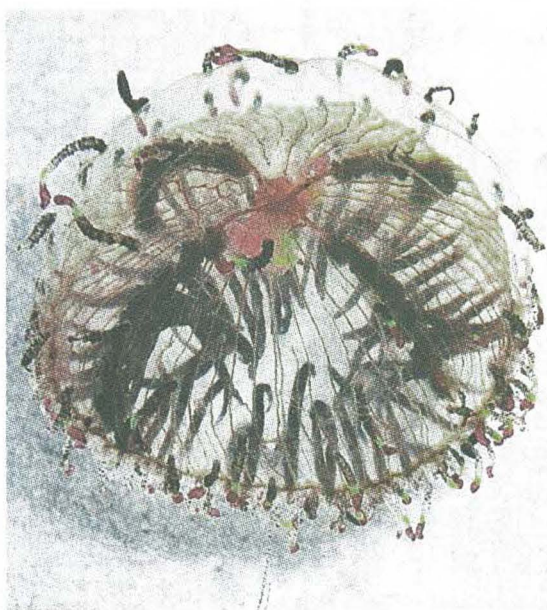


ハナガサクラゲ



△
色鮮やかな
ハナガサク
ラゲ

ハナガサクラゲは、大型のヒドロクラゲで傘の直径が10センチに達する。色鮮やかで、ネオンサインがちらついているように見える。田辺湾では初

久保田 信

22



夏に少数が打ち上がることがあり、写真の個体は6月15日、京都大学瀬戸臨海実験所の北浜へ漂着したものだ。

通常のクラゲの傘はつるんとしているが、ハナガサクラゲは傘から突き出したたくさんの触手があるのが特徴である。その短い触手の一本一本に色があり、3色に染め分けられている。先端は紫色で続いて黄色、残りが根元まで黒色である。傘の縁にも同様の棒状の触手がたくさんある。これらの棒状の色美しい触

手は機能が定かではないが、小魚などの獲物をおびき寄せる効果があるのかもしれない。この棒状の触手

をいっばいに伸ばして海底でじっとしていることが多く、カラフルなイソギンチャクのようにも見え。獲物を捕獲する長い触手は傘の周囲に50本近く生えている。その刺胞毒は強く、刺されるとひどく痛むが死亡例はない。

傘に多数の筋が頂に向かって傘縁から伸びている。それらは求心管と呼ばれ、餌を消化した栄養を大きな体の隅々まで効率よく運ぶのに役立っている。傘の中央にある胃袋から基本的に4本の放射管が十字状に出ているが、それらが循環系の大本の装置である。これら4本の放射管に沿って生殖巣が形成される。胃袋も色美しく、赤と黄色に染め分けられている。胃袋の先端には四つの唇が放射管と同様に十字の位置にある。

ハナガサクラゲは南日本にのみ分布する。ポリプはよく分かっただけで、受精卵から発生した初期のものには、なぜか触手がない。

(京都大学准教授)